

# 景況調査

報告書 NO. 27

平成17年 4月～6月 実績  
平成17年 7月～9月 見通し



蒲郡商工会議所  
中小企業相談所

# 平成17年度第1四半期(H17.4~6月)景況調査

1. 調査時点 平成17年7月

2. 調査対象 蒲郡市内

(1)対象地区 蒲郡市内  
(2)対象(回答)企業 143[137企業、6団体 = 三河織物工業(協)、中部繊維ロープ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法 聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	57 (3)	10 (1)	21 (1)	29	16 (1)	10	143 (6)

( )は団体

## 5. 概況

**全業種総合判断DI値(当期実績)**は、前年同期比で見ると 30.8、前期実績(1~3月・31.5)と比較すると0.7ポイントの上昇、改善の傾向が見られ、**前期比**で見ると 27.3、前期実績(1~3月・30.1)と比較すると2.8ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。また、**売上DI値**についても、前期比で見ると 17.5、前期実績(1~3月・30.1)と比較すると12.6ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**収益DI値**は 28.7、前期実績(1~3月・31.5)と比較すると2.8ポイントの上昇、改善の傾向が見られた。**総合判断来期(7~9月)見通し**については、19.6、前期実績(1~3月・18.2)と比較すると1.4ポイントの下降、やや悪化の傾向が見られる。

「**製造業**」のうち**食料品**は、季節的に需要の停滞期でもあり、売上不振に加え、値下げ要請による利幅縮小や原料価格の高騰など、深刻な状況にある。**繊維**は、主力商品であるジャカードカーテンについては、全体に仕事量は少なく、稼働率は40%前後で推移している。ドビー織物についても、仕事量は極端に減少している。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は70%前後である。先染織物は、仕事量が少ないことに加え、殆ど全てが小ロット物である。しかし、何れも採算面は非常に厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は非常に悪くなっている。今後の見通し、ジャカードカーテンは、4~6月と同様に端境期であり、まだ仕事量は減少するものと思われる。**漁網・ロープ**のうち、繊維ロープは、海運・造船業界の活況を受け出荷量は増加している。漁網は、原料高に対する価格転嫁が進まず採算性は低下している。**鉄工**のうち、工作機械関係は、自動車業界の活発な設備投資が背景にあり、輸出向け・国内向けとも高い水準で推移している。自動車関連は、輸出向け・国内向けとも新車効果もあり堅調な推移が続いている。**化学・プラスチック**のうち、化学工業は、原油高騰による原材料高が続き、販売数量は伸びているが、収益が上らない状況である。プラスチック加工は、原材料に対し受注単価の値上げ交渉が伴わず、販売価格への転嫁もできない。「**建設業**」は、公共工事は、工事発注件数が少なく、競争激化により、採算的にも厳しい状況が続いている。「**卸売業**」のうち**繊維卸**は、産業資材関連:原油高騰による原材料(特に化学繊維)値上げが進んでいる状況で売値になかなか転嫁できず苦慮している。寝装関連:不要期に入り、工場への発注状況も定番品も含め40%程度生産調整に入る。

インテリア関連:ジャカード関係は一部中国生産との競合もあり目先の仕事量は薄い状況である。衣料:細番手織物について、4~6月は通常なら秋冬物の始まりになるが、市況が冷え込んでいる。発注も少なくなっている。

「**小売業**」は、各個店で見ると、依然として水面下にあり、個人消費の低迷に伴う売上の減少、相次ぐ大型店の出店とあいまって、大型店間の競争もあり、厳しい状況となっている。**石油**は、高値更新が続く原油高騰により、大幅な仕入値上昇となっており、販売業者は厳しい状況である。「**サービス業**」のうち**旅館**関係は、「愛・地球博」は、業界にますますの好影響を与えている。昨年は地域的に関西地区が多かったのに対して今年は、東京を中心とした関東方面が多い。団体客が多く、久し振りに観光バスがたくさん各温泉地に入り込んでいる。「**運輸通信業**」のうち**旅客・貨物輸送・水運**は、海運関係:蒲郡港の輸入原木および木材製品の入荷は微減、また自動車輸出は激減の状況である。陸運関係:小口貨物については横這い、また一般貨物について微減、自動車関連部品に関しては微増である。バス業界:「愛・地球博」、「中部国際空港」により乗合・貨物ともに輸送量が増加している。

**設備投資状況**は、35事業所(45件)で設備投資が実施され、生産設備・OA機器・車両運搬具・事業用建物が上位にランクした。来期は36事業所(47件)が設備投資を計画している。

**経営上の問題点**では、売上の停滞・減少、利幅の縮小、競争激化、原材料(燃料)高が項目別・業種別で上位を占めていた。

**当地区においても**、依然としてデフレの長期化、個人消費の低調、設備投資の低調、原油価格高騰による原材料価格の上昇、住宅着工数の低調、中国・アジア製品の輸入拡大等の影響により、4~6月期の業況判断DIは、好調な鉄工業種および「愛・地球博」効果の旅館業種を除き、ほとんどの業種では依然として水面下にあり、来期見通しについても厳しい状況である。

### 全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

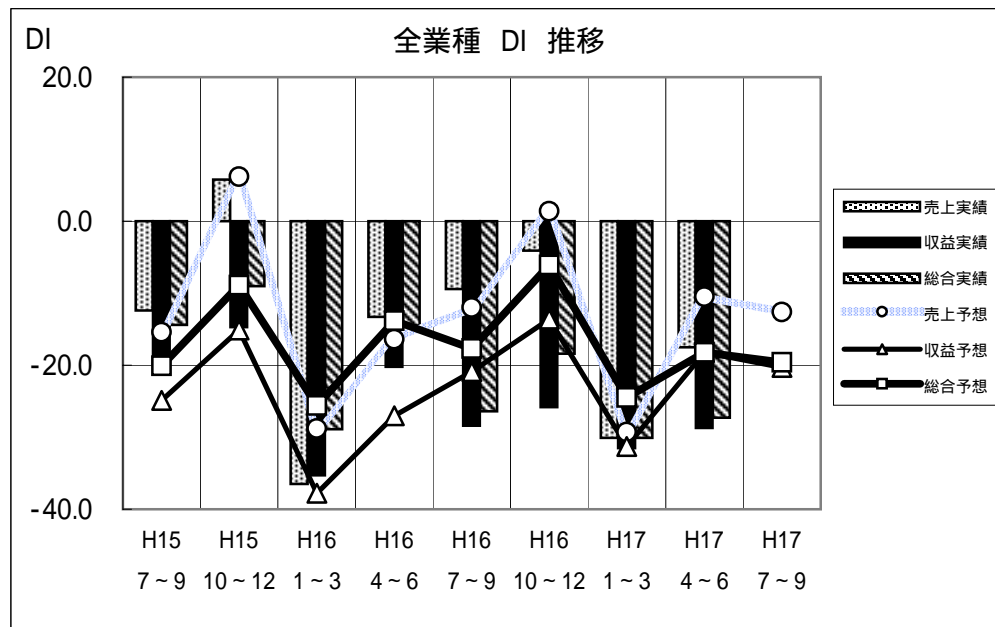
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月~6月 に比べて	前期比 平成17年1月~3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月~9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
生産額・売上額	-14.7	-17.5	-12.6	H16. 4~6月実績	-17.1	-13.3	-24.0	-20.2	-16.5	-14.5	-17.7
製品・商品在庫	-16.1	-12.6	-9.8	H16. 7~9月実績	-13.5	-9.4	-31.1	-28.4	-23.0	-26.4	-6.1
資金繰り	-14.7	-15.4	-15.4	H16.10~12月実績	-29.9	-4.1	-36.0	-25.8	-29.2	-18.4	-24.5
採算(収益)	-31.5	-28.7	-20.3	H17. 1~3月実績	-25.9	-30.1	-38.4	-31.5	-31.5	-30.1	-18.2
従業員数(含む臨時・パート)	-11.2	-2.1	-2.1	H17. 4~6月実績	-14.7	-17.5	-31.5	-28.7	-30.8	-27.3	-19.6
貴社の業況(総合判断)	-30.8	-27.3	-19.6								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



< 業況判断DIの推移 >

	H15.7~9月	10~12月	H16.1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	H17.1~3月	4~6月	7~9月見込み
売上	-12.4	5.8	-36.5	-13.3	-9.4	-4.1	-30.1	-17.5	-12.6
収益	-20.0	-14.7	-35.3	-20.2	-28.4	-25.8	-31.5	-28.7	-20.3
総合	-14.4	-9.0	-28.9	-14.5	-26.4	-18.4	-30.1	-27.3	-19.6

DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数) について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%) = 増加・良好などの割合 - 減少・悪化などの割合

(注) 生産額・売上額 : DI = (増加) - (減少)

製品・商品在庫 : DI = (減少) - (増加)

資金繰り : DI = (好転) - (悪化)

採算(収益) : DI = (上昇) - (下降)

従業員数 : DI = (不足) - (過剰)

業況(総合判断) : DI = (好転) - (悪化)

DIが0より大 景気上向き

DIが0 景気横ばい

DIが0より小 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上



DI 6~49%



DI 5~-5%



DI -6~-49%



DI -50%以下



## 6. 業種別報告

### 製造業

売上DI値は 19.3、前期実績1～3月期（ 10.5 ）に比して8.8ポイントの下降。収益DI値は 36.9、前期実績1～3月期（ 26.4 ）に比して10.5ポイントの下降、総合判断DI値は 28.1、前期実績1～3月期（ 22.8 ）に比して5.3ポイントの下降、いずれも悪化傾向であった。見通しとしては、売上・収益・総合ともに悪化傾向である。

### 製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-14.1	-19.3	-14.0
製品・商品在庫	-12.2	-14.0	-8.7
資金繰り	-19.3	-17.6	-19.3
採算(収益)	-36.9	-36.9	-21.1
従業員数(含む臨時・パート)	-15.8	-10.5	-5.3
貴社の業況(総合判断)	-24.6	-28.1	-21.1

### [食料品]

売上は前年同期比DI値 25.0と減少傾向にある。季節的に需要の停滞期でもあり、前期比のDI値は 50.0と大きく下落した。収益は前年同期比DI値 25.0、前期比ではDI値 62.5と悪化傾向。売上不振に加え、値下げ要請による利幅縮小や原料価格の高騰など、深刻な状況にある。水産加工業では、水揚げ量減少・原料価格上昇により原料確保難が問題となっている企業もみられる。総合判断は前年同期比DI値 12.5、前期比ではDI値 62.5と悪化傾向にある。向こう3ヶ月の見通し：売上はDI値 12.5、収益はDI値 25.0、総合判断ではDI値 25.0と厳しい状況が続くと予想される。食品業界の経営環境は、安全性への対応、生産拠点の海外移転など、厳しさを増しており、合理化による利益率の向上や、消費者を惹きつける高付加価値の商品の開発が課題となっている。

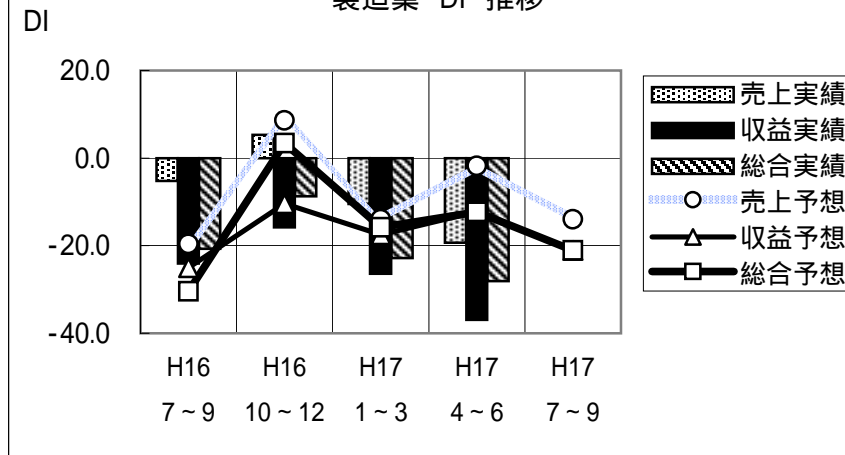
(食品部会)

### (食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-25.0	-50.0	-12.5
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-12.5	-25.0	-12.5
採算(収益)	-25.0	-62.5	-25.0
従業員数(含む臨時・パート)	-37.5	-37.5	-12.5
貴社の業況(総合判断)	-12.5	-62.5	-25.0

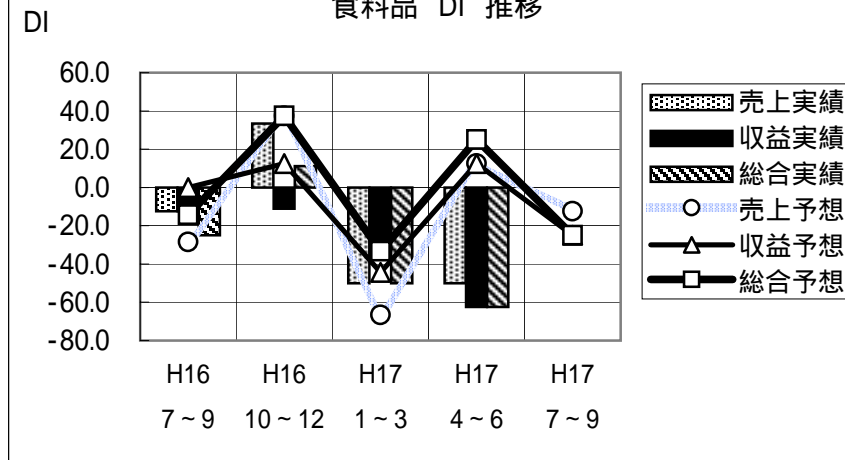
### 製造業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-5.2	5.3	-10.5	-19.3	-14.0
収益	-24.1	-15.8	-26.4	-36.9	-21.1
総合	-20.7	-8.7	-22.8	-28.1	-21.1

### 食料品 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-12.5	33.4	-50.0	-50.0	-12.5
収益	-12.5	-11.1	-37.5	-62.5	-25.0
総合	-25.0	11.1	-50.0	-62.5	-25.0

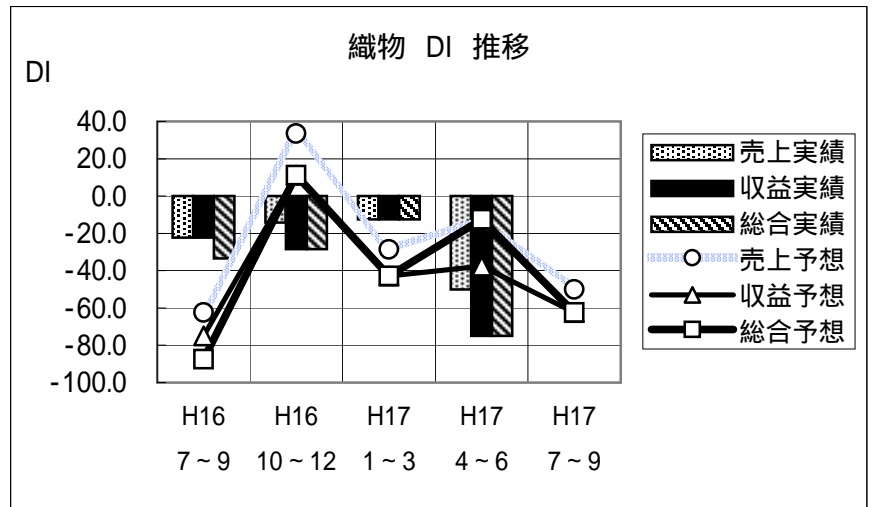
## [織物]

主力商品であるジャカードカーテンについては、全体に仕事量は少なく、稼働率は40%前後で推移している。ここへきて仕事量は極端に減少している。また、専門メーカーから過剰な品質が要求されており、対策に苦慮している。ドビー織物についても、仕事量は極端に減少している。白生地織物は、広幅・並幅を問わず仕事量は少なく稼働率は70%前後である。先染織物は、仕事量が少ないことに加え、殆ど全てが小ロット物である。しかし、何れも採算面は非常に厳しい状況が続いており、期近発注による短納期化・少ロット化が進み稼働率は非常に悪くなっている。今後の見通し、ジャカードカーテンは、4～6月と同様に端境期であり、まだ仕事量は減少するものと思われる。9月以降になれば年末需要が見込まれ、多少回復するものと淡い期待を持っている。ドビーカーテンについても同様である。白生地織物は、時期的に、今期の横パイであれば上々と思われる。先染織物は、春夏物が主力であり仕事量の増加は見込めず、まだ減少すると思われる。採算面で非常に厳しい状況が続いている中で、原油高騰による影響で合繊糸や染色整理加工代が値上がり傾向となっており、工賃への圧迫が懸念されている。総体的に、長期に亘る業況不振の影響で資金繰りは非常に悪化しており、運転資金の新規借り入れも難しい状況が続いている。(織維部会)

### (織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-62.5	-50.0	-50.0
製品・商品在庫	-50.0	-62.5	-25.0
資金繰り	-62.5	-50.0	-75.0
採算(収益)	-62.5	-75.0	-62.5
従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	-50.0	-25.0
貴社の業況(総合判断)	-62.5	-75.0	-62.5



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-22.3	-14.3	-12.5	-50.0	-50.0
収益	-22.2	-28.5	-12.5	-75.0	-62.5
総合	-33.4	-28.5	-12.5	-75.0	-62.5

## [漁網・ロープ]

繊維ロープ：主たる需要先である漁業の水揚げは、昨年15年振りに前年より2.7%増となったほか、このところの水産業における更新需要および海運・造船業界の活況を受け、ロープの出荷量・出荷額とも暫増している。一方マイナス要因として、輸入も昨年は1万トンの大台を超える勢いである。

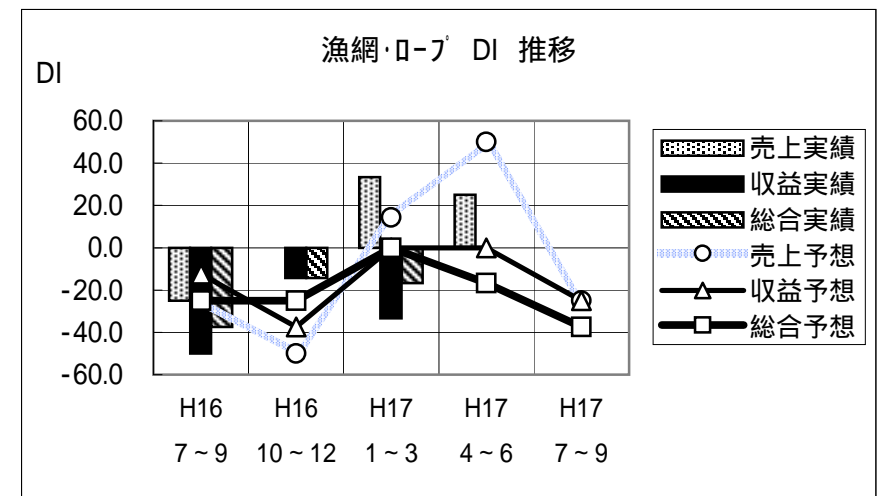
漁網：季節的要因もあり、比較的旺盛な需要に支えられ売上・受注とも順調である。半面、原料高に対する価格転嫁が進まず、採算性は低下している。一部では、パートタイマーを中心に求人難の現象も見られる。

(繊維ロープ部会)

### (漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-12.5	25.0	-25.0
製品・商品在庫	-37.5	-37.5	-37.5
資金繰り	-12.5	-25.0	-12.5
採算(収益)	-37.5	0.0	-25.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-12.5	0.0	-37.5



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-25.0	0.0	33.3	25.0	-25.0
収益	-50.0	-14.3	-33.3	0.0	-25.0
総合	-37.5	-14.3	-16.7	0.0	-37.5

## [鉄工]

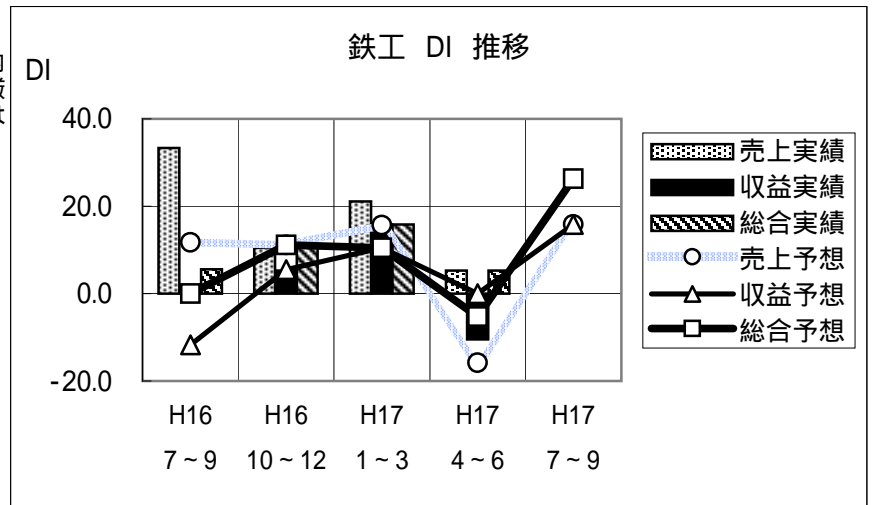
<工作機械関係> 大手工作機械メーカーは、自動車業界の活発な設備投資が背景にあり、輸出向け・国内向けとも高い水準で推移している。下請け業者は、同じように高い水準で横バイが続いているが、工賃は厳しい。チャック、治具、特殊刃物など消耗品などは手に入りやすくなっている。油・鋼材などの値上り分は上乗せができていない。

<自動車部品関係> 自動車メーカーは、輸出向け・国内向けとも新車効果もあり堅調な推移が続いており、海外戦略が大きい。自動車部品下請け業者は、高めの生産状況にあるが、労働基準局の指導もあり残業、土日出勤を抑える傾向にある。収益面は、各社まちまちであるが、工賃のアップは出来なく、厳しい。今後の見通しは

大手自動車メーカーは、海外戦略を強め中国からの危険分散もあり、インド、ロシアに進出を考えている。ハイブリッド車の増産は、なお続く。  
(金属鉄工部会)

### (鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	21.0	5.3	15.8
製品・商品在庫	5.3	5.3	5.3
資金繰り	5.3	10.5	10.5
採算(収益)	-5.2	-10.5	15.8
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	15.8	5.3
貴社の業況(総合判断)	10.5	5.3	26.3



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H17.1~3月	4~6月	7~9月見込み
売上	33.3	10.5	21.1	5.3	15.8
収益	0.0	5.3	15.8	-10.5	15.8
総合	5.6	10.6	15.8	5.3	26.3

## [化学・プラスチック]

化学工業：原油高騰による原材料高が続き、販売数量は伸びているが、収益が上がらない状況である。

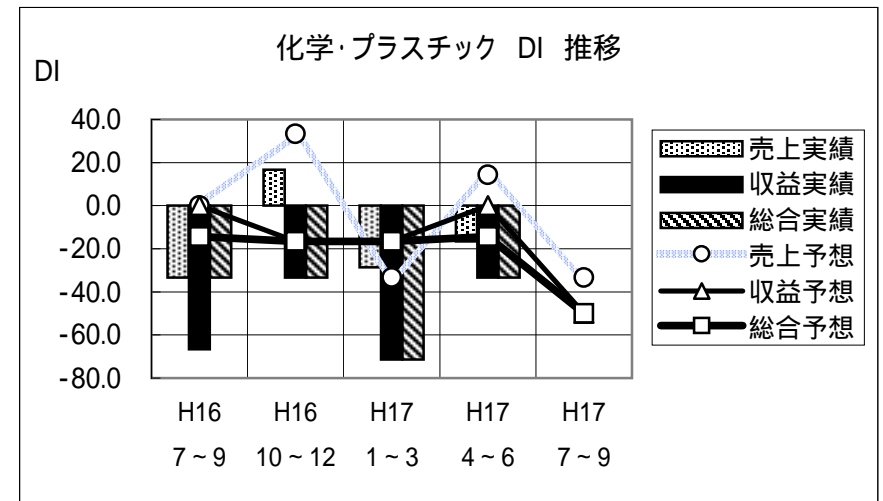
プラスチック製造加工：原料樹脂が再三にわたり値上りし、高値止まりの状態となっている。汎用樹脂については販売価格への転嫁も十分出来ない現状である。収益的に誠に厳しい状況である。

向こう3ヶ月の見通しは

原料の値上り高に製品価格が追いつかない現状であり、原料再値上げの要請も来ており厳しい状況となっている。従来値上り要請が出来なかった取引先へ粘り強く交渉し、収益回復を期待する。また歯材関係で、国内市場の伸びは期待できないので、今後も輸出を主力していくところもある。

### (化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	16.6	-16.6	-33.3
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-33.3	-33.3	-33.3
採算(収益)	-50.0	-33.3	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-50.0	-33.3	-50.0



#### <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H17.1~3月	4~6月	7~9月見込み
売上	-33.3	16.7	-28.6	-16.6	-33.3
収益	-66.7	-33.3	-71.4	-33.3	-50.0
総合	-33.3	-33.3	-71.4	-33.3	-50.0

## 建設業

売上DI値は 10.0、前期実績1～3月期（ 18.2）に比して8.2ポイントの上昇であるが、収益DI値は 40.0、前期実績1～3月期（ 27.3）に比して12.7ポイントの下降、総合判断DI値は 20.0、前期実績1～3月期（ 9.1）に比して10.9ポイントの下降である。見通しとしても、売上・収益・総合とも悪化傾向にある。

公共工事は、工事発注件数が少なく、競争激化の様相を呈している。また民間工事、住宅関連も建築需要が回復傾向にあり、底堅く推移している。しかしながら公共工事・民間工事ともに競争は相変わらず厳しく、採算面では利益確保が厳しい状況が続いている。

向こう3ヶ月の見通しは、

公共工事は、先行き不透明感が強く、前年割れ基調は続き、採算面では徐々に厳しくなってゆき、全体的には、景況感が盛り上がらない状況が続くと思われる。（建設部会）

## 建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	10.0	-10.0	-50.0
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-20.0	-20.0	-50.0
採算(収益)	-40.0	-40.0	-40.0
従業員数(含む臨時・パート)	-20.0	-10.0	0.0
貴社の業況(総合判断)	-20.0	-20.0	-30.0

## 卸売業

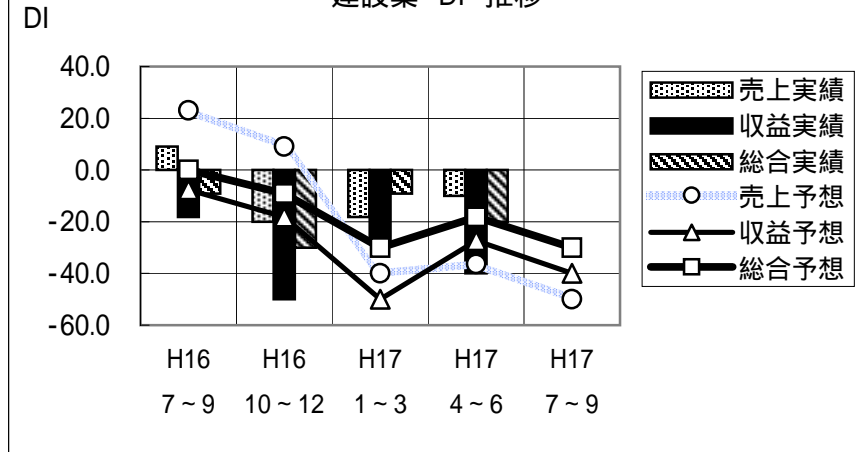
売上DI値は 33.4、前期実績1～3月期（ 62.5）に比して29.1ポイントの上昇、収益DI値は 28.5、前期実績1～3月期（ 33.3）に比して4.8ポイントの上昇、総合判断DI値は 38.1、前期実績1～3月期（ 54.1）に比して16.0ポイントの上昇と、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、いずれも改善傾向にある。

## 卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-28.6	-33.4	19.1
製品・商品在庫	-52.4	-38.1	-28.5
資金繰り	-23.8	-23.8	4.7
採算(収益)	-33.4	-28.5	-14.3
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	4.8
貴社の業況(総合判断)	-61.9	-38.1	-9.5

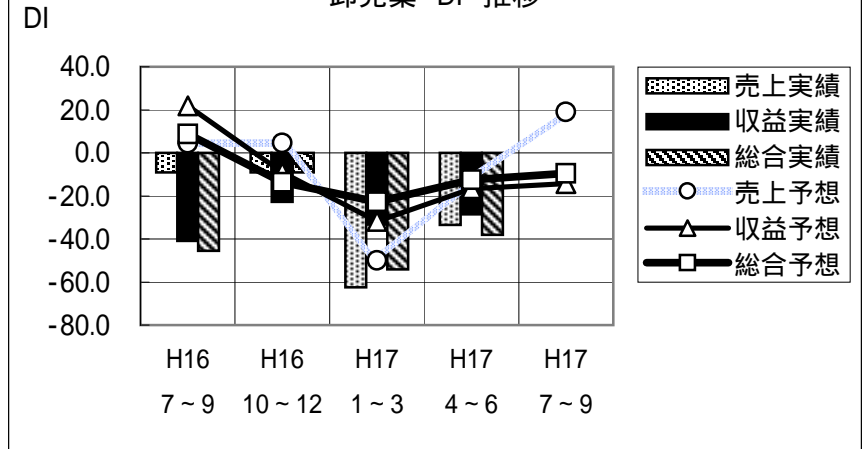
## 建設業 DI 推移



## < 業況判断DIの推移 >

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	9.1	-20.0	-18.2	-10.0	-50.0
収益	-18.2	-50.0	-27.3	-40.0	-40.0
総合	-9.1	-30.0	-9.1	-20.0	-30.0

## 卸売業 DI 推移



## < 業況判断DIの推移 >

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-9.1	-9.1	-62.5	-33.4	19.1
収益	-40.9	-22.8	-33.3	-28.5	-14.3
総合	-45.5	-9.1	-54.1	-38.1	-9.5

## [繊維卸]

産業資材関連：個人消費の低迷・安価な中国製品の輸入拡大・原油高騰による原材料の値上げ等良い情報はなく、益々厳しい状況に直面している。

寝装関連：年間を通じて一番厳しい不需要期に入り、工場への発注状況も定番品（中肉ファンシー素材）も含め40%程度生産調整に入る。また、製品販売もこの時期（6～8月）は素材に乏しく、秋冬物の商談が若干あるものの、縫製部門も先行き厳しい状況が予測される。

インテリア関連：例年1～3月の需要期に販売量が伸びず在庫がはけなかったため、4月以降の発注が殆ど無く、ジャカード関係は一部中国生産との競合もあり目先の仕事量は薄い状況である。今後としては、各社新柄が発売になるため、その動きに期待を寄せている。

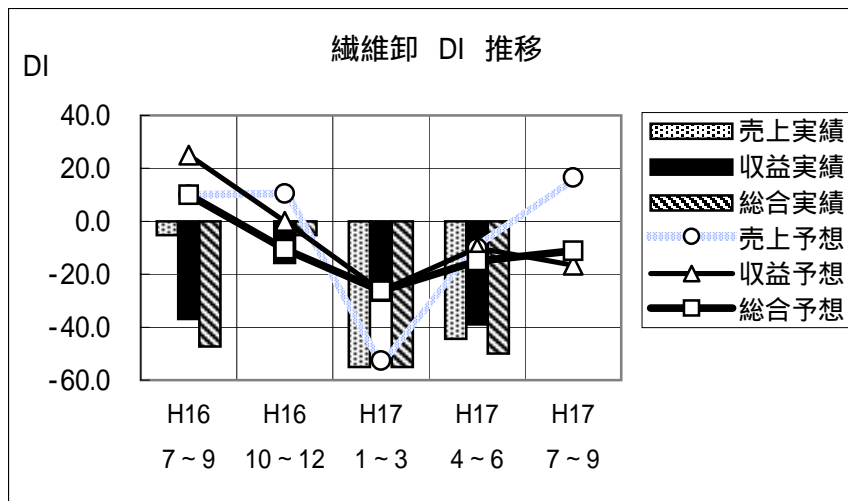
衣料関連：細番手織物（ハンカチ、ブラウス関係）について、例年最終春夏物の発注が5月まで出るところ、4月で少なくなり5月より機屋の空台目立つようになる。4～6月は通常なら秋冬物の始まりになるが、市況が冷え込んでおり、発注も少なくなっている。

（繊維部会）

## (繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-50.0	-44.4	16.6
製品・商品在庫	-61.1	-44.4	-33.3
資金繰り	-27.8	-27.8	5.5
採算(収益)	-44.4	-38.9	-16.6
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	5.6
貴社の業況(総合判断)	-72.2	-50.0	-11.1



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-5.2	0.0	-55.0	-44.4	16.6
収益	-36.9	-15.8	-30.0	-38.9	-16.6
総合	-47.3	-5.2	-55.0	-50.0	-11.1

## 小売業

売上DI値は 34.5、前期実績1～3月期（41.4）に比して6.9ポイントの上昇。収益DI値は 31.0、前期実績1～3月期（37.9）に比して6.9ポイントの上昇、総合判断DI値は 41.4、前期実績1～3月期（44.9）に比して3.5ポイントの上昇と、売上・収益・総合判断とも改善傾向であった。見通しとしては、いずれも改善傾向である。

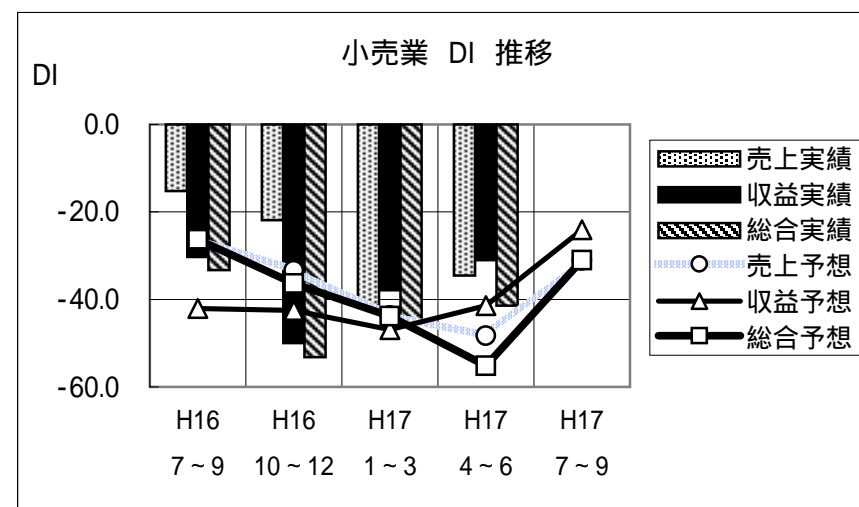
各個店でみると、依然として水面下であり、個人消費の低迷に伴う売上の減少、相次ぐ大型店の出店とあいまって、大型店間の競争もあり、厳しい状況となっている。4月より、蒲郡市商店街振興組合連絡協議会では環境への取り組みとして「エコバッグ持参運動」および万博関連事業「EXPOエコマネー」を9月未まで実施している。

向こう3ヶ月の見通し、景況回復と個人消費の伸びと、お中元のシーズンにて各個店の売上増を期待したい。また「エコバッグ持参運動」、「EXPOエコマネー」の更なる利用促進をはかる。（商業部会）

## 小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-41.4	-34.5	-31.1
製品・商品在庫	-17.2	-10.4	-10.4
資金繰り	-20.7	-17.3	-20.7
採算(収益)	-41.4	-31.0	-24.1
従業員数(含む臨時・パート)	-6.9	6.9	-3.5
貴社の業況(総合判断)	-55.2	-41.4	-31.0



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-15.2	-21.9	-41.4	-34.5	-31.1
収益	-30.3	-50.0	-37.9	-31.0	-24.1
総合	-33.3	-53.2	-44.9	-41.4	-31.0



## 【飲食】

全般的には、あまり変化はないが、下げ止まった感もある。万博関連の団体客で旅館は賑わっているが、飲食店にはごく稀に宴会関係の利用がある程度にて、ほとんど影響はない。会社関係の利用は低調のままで、根本的な解決策は見出せない。

### 向こう3ヶ月の見通し

夏休み・盆休みの行楽シーズンを迎え、家族客での利用に期待している。昨年の猛暑は、ドリンク類の消費量を増加させたが、飲食店での実感はあまり無かった、気候による影響は余り無いと思われる。

(蒲郡市飲食業環境衛生組合連合会)

## 【飲食】

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-71.4	-42.8	0.0
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	-28.6	-28.6	-14.3
採算(収益)	-57.1	-57.1	-28.6
従業員数(含む臨時・パート)	-14.3	-14.3	-14.3
貴社の業況(総合判断)	-71.4	-57.1	-28.6

## 【石油等その他小売】

不需要期であり、通常では値下がりする原油価格だが、4月初めにバレル50ドル強をつけていた中東産ドバイ原油が5月中旬に44ドル台に軟化していたものの、再び上昇に転じ50ドルを突破した。小売段階でも高値で対応する必要があるが、原油高を適切に反映した市況対応となっていないのが現状である。

向こう3ヶ月の見通しは、5月から表面化してきたガソリンなどの需要減が尾を引いているため、夏商戦入りを機に売姿勢が一気に強まる懸念される。7月には製油所の大型定期修理明けになるため、元売が増産に走れば、需給混乱と市況下落が必至と思われる。増販姿勢の強まり懸念と同時に警戒を要するのが原油価格の動向であるが、我が国の輸入原油価格に影響する中東産ドバイ原油がバレル50ドル台に反発していることから注目される。このまま高止まりするならば、ガソリン需要が高まる夏商戦入りとともに、仕切り値上げの事態も考えられ、末端への転嫁が重なる環境から、販売業者は厳しい状況を強いられると思われる。

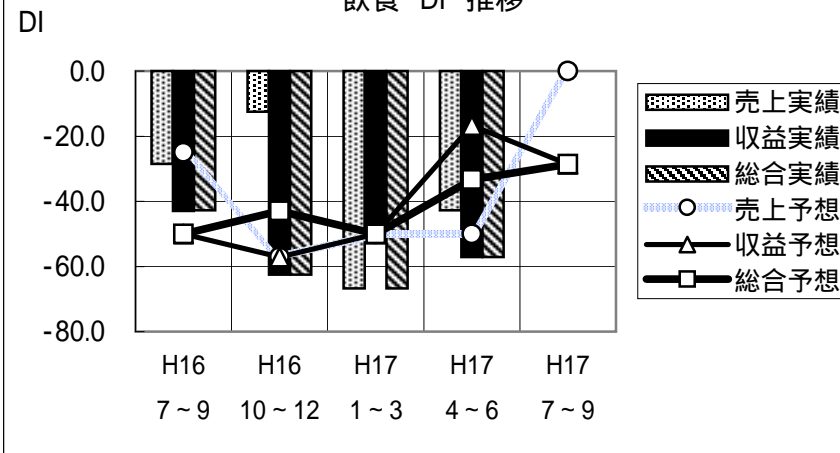
(エネルギー部会)

## 【石油等その他小売】

(DI 単位: %)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	-25.0	-37.5	-50.0
製品・商品在庫	-25.0	-25.0	-25.0
資金繰り	-25.0	-25.0	-37.5
採算(収益)	-37.5	-25.0	-37.5
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	12.5	0.0
貴社の業況(総合判断)	-50.0	-50.0	-50.0

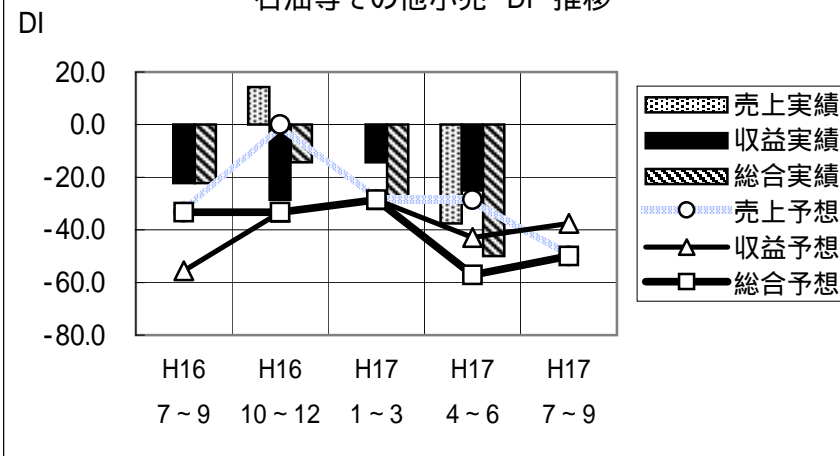
## 飲食 DI 推移



## <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H17.1~3月	4~6月	7~9月見込み
売上	-28.5	-12.5	-66.7	-42.8	0.0
収益	-42.9	-62.5	-50.0	-57.1	-28.6
総合	-42.8	-62.5	-66.7	-57.1	-28.6

## 石油等その他小売 DI 推移



## <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H17.1~3月	4~6月	7~9月見込み
売上	0.0	14.3	0.0	-37.5	-50.0
収益	-22.2	-28.5	-14.3	-25.0	-37.5
総合	-22.2	-14.3	-28.6	-50.0	-50.0

## サービス業

売上DI値は25.0、前期実績1～3月期（38.4）に比して63.4ポイントの上昇。収益DI値は6.2、前期実績1～3月期（30.8）に比して37.0ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績1～3月期（7.7）に比して7.7ポイントの上昇と、いずれも大幅な改善傾向であった。見通しとしては、いずれも若干の悪化傾向である。

### サービス業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	25.0	25.0	12.5
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	12.5	6.2	0.0
採算(収益)	12.5	6.2	12.5
従業員数(含む臨時・パート)	0.0	12.5	6.3
貴社の業況(総合判断)	18.8	0.0	6.3

## [旅館]

3月25日に始まった「愛・地球博」は、業界にまずまずの好影響を与えている。昨年の同時期も「浜名湖花博」により好実績上げたが、それを上回る実績を上げている。昨年は地域的に関西地区が多かったのに対して今年は、東京を中心とした関東方面が多い。団体客が多く、久しぶりに観光バスがたくさん各温泉地に入り込んでいる。基本宿泊料も若干上回っており、1人当りの館内消費の上昇も相まって売上アップとなっている。一方、日帰り客について「愛・地球博」は、マイナス効果であって、日帰り入浴・食事を行っている施設では厳しい状況下にある。

向こう3ヶ月の見通し

引き続き、「愛・地球博」効果が続くものと期待している。予約の状況からみても、昨年のペースより早い予約受注がある。これに例年の夏休み客の入込みを加えれば、昨年実績以上の人員を見込むことができる。その上で総消費単価のアップが図れば売上も期待できる。注意すべき点は、日帰り客の減少、愛知県内の宿泊客の減少の歯止めをかけることができるかである。相対的にみれば期待してよいのではないかとと思われる。

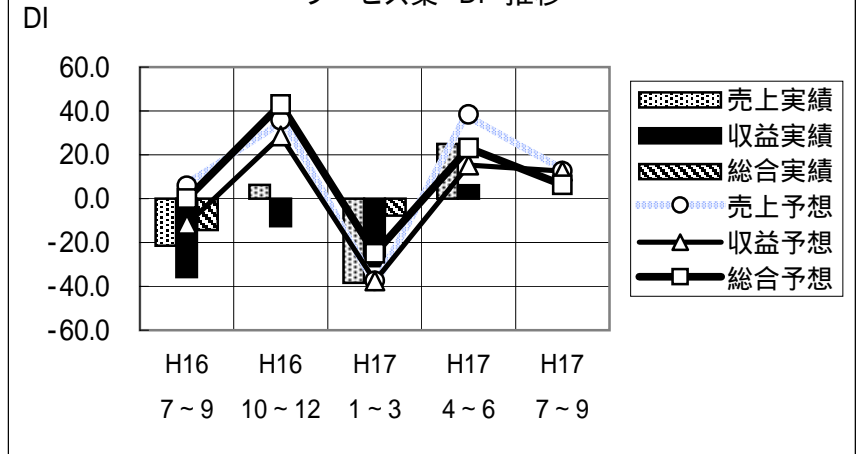
(観光部会)

### (旅館)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	33.4	33.4	16.6
製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
資金繰り	33.3	16.6	16.7
採算(収益)	33.3	16.7	16.7
従業員数(含む臨時・パート)	16.6	33.3	16.7
貴社の業況(総合判断)	50.0	16.7	16.7

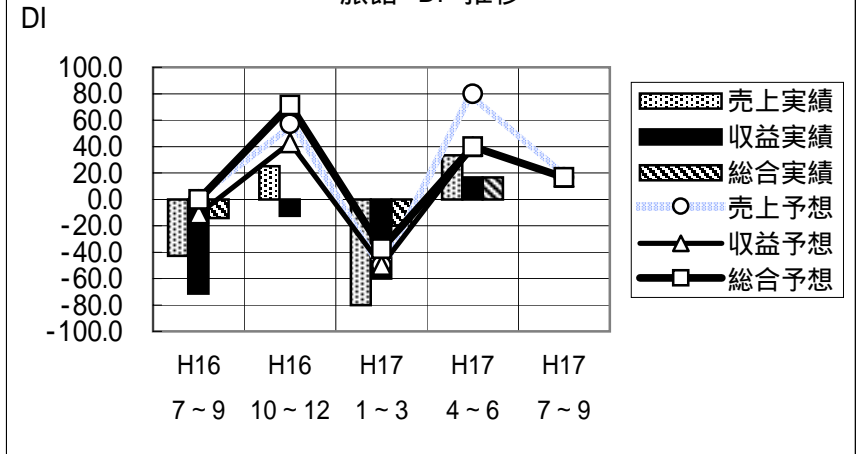
### サービス業 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-21.4	6.3	-38.4	25.0	12.5
収益	-35.8	-12.5	-30.8	6.2	12.5
総合	-14.3	0.0	-7.7	0.0	6.3

### 旅館 DI 推移



### <業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	H17.1～3月	4～6月	7～9月見込み
売上	-42.8	25.0	-80.0	33.4	16.6
収益	-71.4	-12.5	-60.0	16.7	16.7
総合	-14.3	0.0	-20.0	16.7	16.7

## 運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績1～3月期（33.4）に比して33.4ポイントの上昇。収益DI値は20.0、前期実績1～3月期（44.5）に比して24.5ポイントの上昇。総合判断DI値は10.0、前期実績1～3月期（22.2）に比して12.2ポイントの上昇と、いずれも改善傾向であった。見通しとしては、売上・収益・総合判断ともすべて悪化傾向である。

## 運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	0.0	0.0	-20.0
製品・商品在庫	0.0	10.0	0.0
資金繰り	10.0	-10.0	-10.0
採算(収益)	-30.0	-20.0	-50.0
従業員数(含む臨時・パート)	-30.0	0.0	-10.0
貴社の業況(総合判断)	-20.0	-10.0	-30.0

## [旅客・貨物輸送・水運]

海運関係：蒲郡港の輸入原木および木材製品の入荷は微減、また自動車輸出は激減の状況である。また中間処理しセメント原料となる銻物砂の動きが好調である。

今後の見通し、木材入荷は低調であり、自動車の動きも少ないが、新規航路および新倉庫建設の動きもある。

陸運関係：貨物量について、全般に大きな変動はない、小口貨物については横這い、また一般貨物について微減、自動車関連部品に関しては微増である。原油の高騰による軽油価格の上昇で経営の危機に瀕している状況である。運賃値上げもままならず廃業、倒産する事業者もある。また環境問題（NOX、PM法）に対応するため車両価格も上昇等、業界の環境は引き続きよくない。

今後の見通し、貨物量、売上ともに期待は難しいが、蒲郡港の活性化が大きな鍵を担うと思う。

バス業界関係：「愛・地球博」・「中部国際空港」により乗合・貨物ともに輸送量が増加している反面、要員不足が深刻となり、需要を賄いきれていない。業績としては過去数年来においても最高水準にある。

今後の見通し、「愛・地球博」開催期間中は、このまま好調を維持できる見込みである。

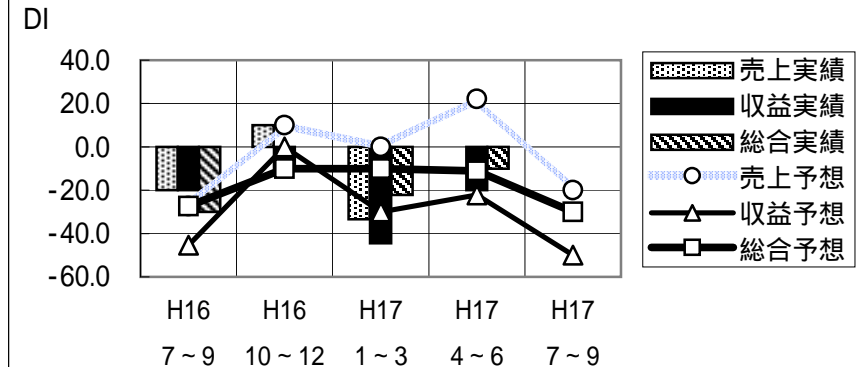
(運輸交通港湾部会)

## (旅客・貨物輸送・水運)

(DI 単位:%)

	前年同期比 平成16年4月～6月 に比べて	前期比 平成17年1月～3月 に比べて	来期見通し 平成17年7月～9月 の見通し
生産額・売上額	14.3	0.0	14.3
製品・商品在庫	0.0	14.3	0.0
資金繰り	28.6	0.0	0.0
採算(収益)	-14.3	0.0	-28.6
従業員数(含む臨時・パート)	-42.9	-14.3	-14.3
貴社の業況(総合判断)	-14.3	0.0	-28.6

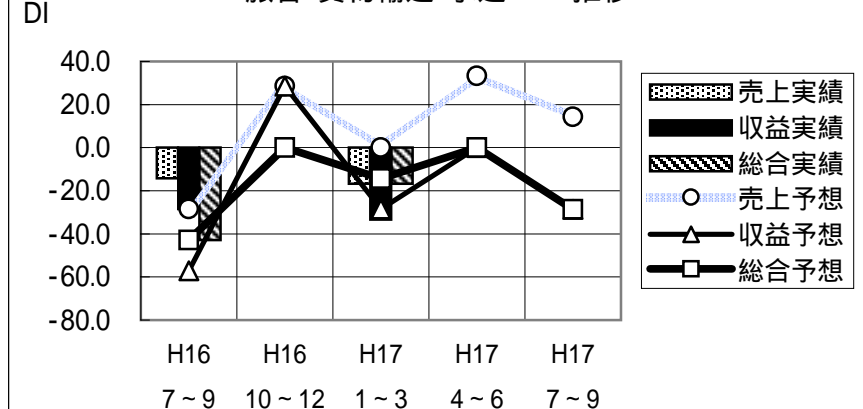
## 運輸通信業 DI 推移



## <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H17.1~3月	4~6月	7~9月見込み
売上	-20.0	10.0	-33.4	0.0	-20.0
収益	-20.0	-10.0	-44.5	-20.0	-50.0
総合	-30.0	0.0	-22.2	-10.0	-30.0

## 旅客・貨物輸送・水運 DI 推移

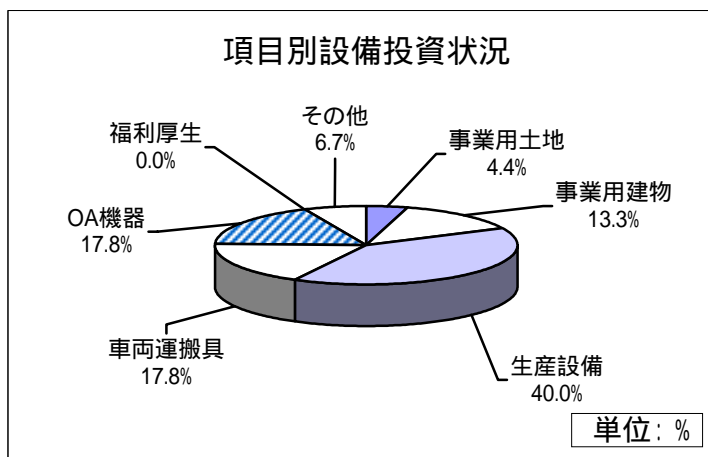
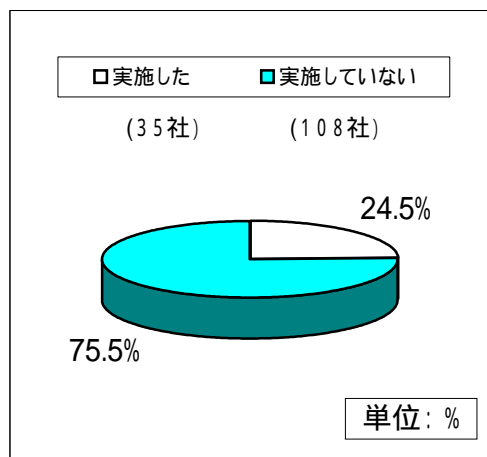


## <業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	H17.1~3月	4~6月	7~9月見込み
売上	-14.2	0.0	-16.7	0.0	14.3
収益	-28.5	0.0	-33.3	0.0	-28.6
総合	-42.9	0.0	-16.7	0.0	-28.6

## 7. 設備投資動向

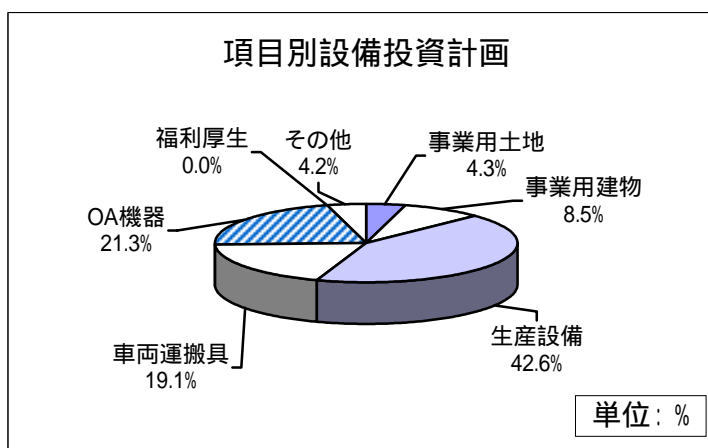
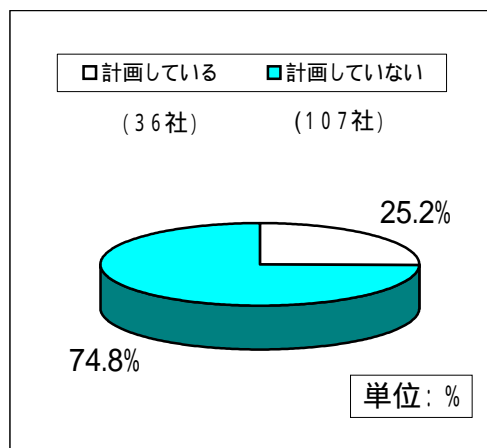
< 今期(H17.4～6月)設備投資実施状況 全業種 >



・4～6月期に設備投資を実施した企業は、35社(24.5%)あり、項目別には45件ある。そのうち生産設備(40.0%)、車両運搬具(17.8%)、OA機器(17.8%)、事業用建物(13.3%)に投資された。

・7～9月期に設備投資計画のある企業は、36社(25.2%)あり、項目別には47件ある。そのうち、生産設備(42.6%)、OA機器(21.3%)、車両運搬具(19.1%)、事業用建物(8.5%)の投資計画である。

< 来期(H17.7～9月)設備計画 全業種 >



設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	2	2
事業用建物	6	4
生産設備	18	20
車両運搬具	8	9
OA機器	8	10
福利厚生	0	0
その他	3	2
計	45	47

(単位:件)

今期(H17.4～6月)、来期(H17.7～9月)設備投資実施、計画動向

	全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サ-ビス業	運輸通信業
1. 今期(H17.4～6月)	35	21	2	2	2	5	3
2. 来期(H17.7～9月)	36	22	2	3	2	2	5

(単位:事業所)

## 8. 経営上の問題点

### 項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 143 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	89 62.2%
2	利幅の縮小	78 54.5%
3	競争激化	56 39.2%
4	原材料(燃料)高	50 35.0%
5	消費者ニーズの変化の対応	30 21.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

・項目別経営上の問題点は、上位4位までは前回と同じ順位となっている。

・業種別経営上の問題点では、製造業・卸売業・小売業では1位に売上の停滞減少をあげ、建設業では利幅の縮小をあげ、またサービス業では消費者ニーズの変化への対応をあげている。

### 業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1位	2位	3位
製造業	売上の停滞・減少 57社 33社 57.9%	利幅の縮小 33社 57.9%	原材料(燃料)高 33社 57.9%
建設業	利幅の縮小 10社 8社 80.0%	売上の停滞・減少 7社 70.0%	競争激化 6社 60.0%
卸売業	売上の停滞・減少 21社 15社 71.4%	原材料(燃料)高 10社 47.6%	利幅の縮小 9社 42.9%
小売業	売上の停滞・減少 29社 24社 82.8%	競争激化 17社 58.6%	利幅の縮小 13社 44.8%
サービス業	消費者ニーズの変化の対応 16社 11社 68.8%	利幅の縮小 7社 43.8%	競争激化 5社 31.3%
運輸通信業	利幅の縮小 10社 8社 80.0%	売上の停滞・減少 6社 60.0%	原材料(燃料)高 5社 50.0%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

## 付帯調査(地域デ - タ)

番号	調査項目	単位	H17.7報告	基準日	H17.4報告	基準日	H17.1報告	基準日	参照資料
1	人口	人	81,731	H17.7.1	81,739	H17.4.1	81,805	H17.1.1	市民課住民基本台帳
2	世帯数	世帯	27,584	H17.7.1	27,489	H17.4.1	27,390	H17.1.1	"
3	15才～65才生産人口	人	53,008	H17.7.1	54,090	H17.4.1	54,234	H17.1.1	市民課
4	外国人登録者数	人	1,725	H17.6.30	1,680	H17.3.31	1,602	H16.12.31	"
5	建築確認届出件数	件	125	H17.3月～5月	115	H16.12月～17.2月	133	H16.9月～16.11月	建築住宅課受付件数(別紙参照)
6	全国完全失業率	%	4.4	H17.4月	4.5	H17.1月	4.6	H16.11月	総務省(別紙参照)
	愛知県完全失業率	%	3.5	H17.1～3月	3.2	H16.10～12月	3.5	H16.7～9月	総務省(愛知県産業労働総務課より)
7	全国有効求人倍率	倍	0.94	H17.4月	0.91	H17.1月	0.91	H16.11月	総務省(別紙参照)
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	1.17	H17.5月	1.15	H17.2月	1.00	H16.11月	蒲郡公共職業安定所(業務月報より)

# 全国データ

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費			
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶電力除)前年比	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 前期比(%)年率	消費支出 (全国勤労者)前年比%	新車新規登録届出数 (乗用車 季調・万台)		
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	515	3.4	1.0	707.7		
1997年度	236	3.5	0.69	3.9	1,341,347	520	0.2	0.2	672.5		
1998年度	294	4.3	0.5	18.6	1,179,536	514	0.8	0.8	587.9		
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	508	0.9	1.8	586.1		
2000年度	平均 320	4.7	0.62	16.6	1,213,157	513	3.0	1.2	596.3		
2001年度	348	5.2	0.56	12.6	1,173,170	501.3	1.1	3.4	590.6		
2002年度	359	5.4	0.54	3.7	1,145,553	497.5	0.8	0.6	586.8		
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	501.6	2.0	0.2	589.1		
2003年1月	357	5.5	0.60	18.8	82,770	494.1	2.0	2.0	38.0		
2月	349	5.2	0.61	1.4	83,399			1.3	52.6		
3月	384	5.4	0.60	11.7	87,297			2.6	82.3		
4月	385	5.4	0.60	4.3	100,276			1.2	37.9		
5月	375	5.4	0.61	12.2	97,970	*497.7	2.6	1.1	42.0		
6月	361	5.3	0.61	12.1	115,081	*498.7	2.2	1.1	49.7		
7月	342	5.3	0.62	6.1	98,718			4.2	52.5		
8月	333	5.1	0.63	12.2	92,406			0.6	35.5		
9月	346	5.1	0.66	0.6	98,369			2.0	57.2		
10月	343	5.2	0.70	23.1	104,572	*502.2	6.2	0.9	46.1		
11月	330	5.1	0.73	13.4	98,399			0.1	45.8		
12月	300	4.9	0.77	18.4	100,826			0.0	43.6		
2004年1月	323	5.0	0.76	3.0	88,797			1.0	40.4		
2月	330	5.0	0.76	9.3	84,950	*507.4	5.2	5.2	53.5		
3月	333	4.7	0.76	0.2	93,285	*504.9	* 0.6	0.1	84.9		
4月	335	4.7	0.78	16.9	96,178			4.0	37.7		
5月	319	4.6	0.79	8.8	98,889			4.3	39.6		
6月	309	4.6	0.83	10.4	106,582			2.6	48.2		
7月	318	4.9	0.84	0.3	106,462	* 504.0	* 1.0	0.9	52.3		
8月	314	4.8	0.84	5.4	102,070			0.4	36.3		
9月	309	4.6	0.86	5.0	108,281			0.9	56.3		
10月	311	4.6	0.89	9.9	106,145			1.4	42.6		
11月	290	4.6	0.91	15.1	98,561	* 504.8	* 0.2	0.4	48.6		
12月	270	4.5	0.90	0.9	98,849	* 507.6	* 4.9	3.2	45.0		
2005年1月	296	4.5	0.91	4.8	94,944			0.5	39.2		
2月	308	4.7	0.91	7.2	85,288			4.0	52.9		
3月	313	4.5	0.91	13.2	90,789			0.1	83.4		
4月	310	4.4	0.94	2.5	96,740	-	-	2.9	40.5		
5月	-	-	-	-	101,862			-	-	-	42.5
6月	-	-	-	-	-			-	-	-	* 51.7

(総務省)

(内閣府)

(国土交通省)

\*は速報値(内閣府)

(総務省)(日本自動車販売協会連合会)